

医療連携室だより 第12号

平成 17 年 12 月 20 日 公立置賜総合病院医療連携室 ☎0238-46-5000 内線 1902,1903



「教育研修とがん登録について」

公立置賜総合病院 副院長 豊野 充

本年 4 月に副院長、兼教育研修部長を拝命致しました。山形大学で 14 年間文部教官を勤めましたが、その後、長井市立総合病院で 10 年間過ごしました。もう教育などとは程遠いと思っておりますが、できる範囲で頑張っております。昨年春から「新臨床研修医制度」が発足し、全国の卒後研修医が一定のカリキュラムに則って臨床研修を行っております。1 年目は内科 6 か月、外科 3 か月、救急・麻酔 3 か月、2 年目には産婦人科・小児科・精神科・地域医療を各々 1 か月ずつ研修し、残った 8 か月で自由選択科を研修するものです。

当院は精神科あり、サテライト病院あり、すべての科を履修できますので「単独型」として登録しております。今年度は 3 名の新研修医を迎え、また「協力型病院」として山形大学 2 年目の研修医を年に 6 名迎えて順調にスタートを切っております。医師 71 名中 50 名が指導医であり、「指導医講習会」にも積極的に参加しております。将来有望な若い医師を暖かく見守ってください。

医師および職員、さらに医療連携を兼ねて毎月講演会や講習会を行っております。剖検症例から学ぶ臨床病理検討会（CPC）と日当直医のための救急担当医講習会を年 5 回、各科の大きなテーマで教育講演をしてもらう特別講演会を年 5 回、そして開院記念講演会を毎年 11 月に行っております。多数ご参加下さいますようお願い申し上げます。

山形県のがん患者届出事業は全国的にも優秀な成績を示しています。当院も開院当初からほとんど漏れなく登録しており、県立中央病院に次いで 2 番目に優秀な成績を収めています。開院以来現在まで 5 年間、毎年 800 例以上のがん症例を登録しております。特に多いのは胃癌、大腸癌、肺癌、前立腺癌、食道癌、肝臓癌、乳癌などです。地域性もありますが、積極的にご紹介下さる諸先生方のお陰と、いつも感謝しております。これらのがん登録症例の統計から疾患の傾向、治療法の進歩、余後などを知り、牽いては病院機能評価にも繋がり、さらに若い研修医の研鑽に役立つものと信じてこの仕事を推進しております。

今後とも医療連携事業にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

第2回公立置賜総合病院登録医総会および 第2回医療連携フォーラム in 置賜のご案内

日時：平成18年1月20日 午後6時～ 登録医総会
午後6時30分～ 医療連携フォーラム講演会
場所：公立置賜総合病院 二階大研修室
演題：『虚血性心疾患患者管理における開業医の役割と病診連携』
講師：筑波メディカルセンター病院
副院長 野口 裕一 先生（循環器内科）

第2回目となりました登録医総会を上記の日程で行います。今回は医療連携フォーラム in 置賜の講演会と同時開催に致しましたので、ご参加の程よろしくお願いたします。

野口先生は1981年筑波大卒で、1982年から筑波メディカルセンター病院勤務。循環器内科が専門で現在医療連携室長を兼務されております。昨年のNikkei Medicalに医療連携のテーマで掲載された先生の主張を抜粋しますと、「病診連携はむしろこちらから開業医先生方をお願いしていること。連携なしに我々も診療できない。」「とにかくまめに手紙を書き、開業医の先生方と患者情報を共有するよう心がける。」「開業医の集まる勉強会では病診連携を上手に利用していただくためのコツを講演する。」という内容で、「開業医とスムーズに連携出来ない様な医師はどこかの病院に行っても困る。」との考えから、以下の心得を作成しておられます。

「病診連携医師心得10箇条」（野口氏作成）

1. 当院が地域医療支援病院を選択した理由を理解すること。
2. 当院に対する開業医の意識を理解すること。
3. 開業医に対しては最大限の敬意をもって対応すること。
4. 紹介された患者さんと開業医の信頼関係を損なうような事が無いよう細心の注意を払うこと。
5. 勤務医にとって初診の患者さんでも、開業医にとっては長年診療を続けた大切な患者さんであることを理解すること。
6. 紹介入院、救急診療の依頼についてはあらゆる努力を払って対応すること、他院に転院させなければならない場合には、紹介された開業医の了承を得ること。
7. 開業医から診察、検査の内容に希望がある場合には、その意に沿うよう努力すること。
8. 紹介された患者さんは、一定の診療が終了したら原則的に紹介医に返すこと。
9. 紹介患者の受診報告、経過報告、診療結果報告（診療情報提供書）を必ず書くこと。
10. 預かった資料はなるべく早く返却すること。

**当日は医療連携に関する、紹介する側と受ける側の両方のお話が聞けるとお思います
ご参加よろしくお願いたします。**

（文責 医療連携部長 山田昌弘）

老人性認知症センター主催事業

『認知症に関する講演会』

12月1日に当院大研修室にて、山形大学医学部助教授川勝 忍先生から「認知症の初期症状と対応」という内容で、主に置賜管内の保健・福祉・介護に関わる職員約150人を対象にご講演をいただきました。

今回は視覚に訴えるビデオ・DVDを利用しながらの講演で一般の方も分かりやすい内容でした。

認知症の原因はたくさんあり、そのうちの最も多い原因がアルツハイマー型認知症であること。物忘れの性質の鑑別ということで、良性(年相応)の物忘れと、悪性(病気による)の物忘れの特徴についての話と介護者が初期の段階で気づいた変化、医療機関を受診しない理由などの話は実際に認知症の方と関わる方は興味深いところでした。

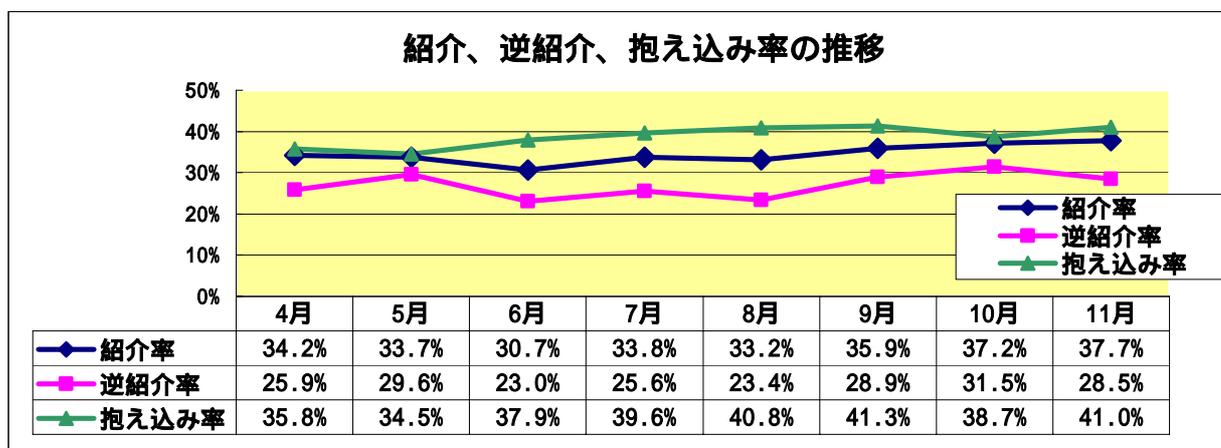
受診の必要性を見極めながら早期発見し、早期診断(鑑別診断)、早期治療することは、進行防止(抑制)上、重要であること。対応については、生活能力の評価、医学的判断、使える福祉介護資源などについて把握することが非常に大切であることを痛感しました。



(川勝 忍 助教授の講演)



(参加者の質問コーナー)



おかげ様をもちまして紹介率は順調に30%以上を維持しております。逆紹介率も徐々に伸びてきておりますが、抱え込み率も高くなっていることが若干気になります。今後、逆紹介をどんどん推進して行きたいと考えておりますので、御協力よろしくお願いたします。

非紹介患者初診加算料改定のお知らせ

公立置賜総合病院では、初診の方で、紹介状をお持ちでない患者様からは、「非紹介患者初診加算料」として「780円」（消費税込み）をご負担いただいておりますが、平成18年1月1日から「1,570円」（消費税込み）に改定します。

なお、救命救急センターを受診された場合も、同様の取り扱いとなります。

このたびの改定は、厚生労働省の方針に基づき、病院と開業医との役割分担を一層推進するためのものです。軽症の患者様にはできるだけ開業医を受診していただくよう奨めすることが基本となっております。そうすることによって、当病院の大きな役割であります「高度・専門医療」を充実し、また、外来診療の待ち時間を短縮するなど、患者様へのサービス向上に努めていこうと考えております。

つきましては、診療所の先生方に紹介状のご依頼をお願いする患者様が多くなるのではと思われまますので、ご協力よろしくお願ひいたします。



診療所等の先生方へお願ひ



救命救急センターから

患者さんをご紹介いただく場合は、事前に電話で救命救急センターへ連絡をお願いいたします。また、紹介状もFAXで送付願ひます。



夜間、休日の場合も同様にお願ひいたします

救命救急センターTEL：46-5800（直通）

FAX：46-5801

予約センターから

内科へ患者さんをご紹介いただく場合はできるだけ消化器、呼吸器、血液などの指定をお願ひいたします。



風邪を引いている方は 面会をご遠慮ください

入院患者が感染すると、持病を悪化させたり、肺炎などの合併症を起こし重症化しやすいので面会をご配慮していただいております。



病病連携推進活動

（報告）



この度、置賜地区内の病院を訪問し、日ごろの連携に感謝すると共に当院の病院機能・役割・病床稼働率などの状況から更なる連携強化と紹介患者さんのスムーズな受け入れについてお願ひして参りました。